



全国展開・中部/北部地域「出前講座&OJT」、第5回全国展開ワークショップ 2016年短期専門家、日本企業視察受け入れなど

2016年3月に南部地域でスタート切った全国展開「出前講座&OJT」は4月～6月の四半期には中部、北部地域でも実施されました。また、この期間に開催された四半期ごとの全国展開ワークショップが第5回目を迎えました。

2016年度前期短期専門家の手続きも開始され、6月5日に先陣を切ってNRW管理の高橋順一コンサルタントが赴任しました。他には、上下水道分野に感心のある日本中小企業視察団の受け入れ、日本での課題別研修に参加するMaWaSUメンバーを紹介します。



全国展開・中部/北部「出前講座&OJT」

MaWaSUプロジェクトはルアンパバーン県水道公社(北部)、首都ビエンチャン水道公社(中部)、カムアン県水道公社(南部)をパイロット水道公社として、プロジェクト前半(2012～2015年)はパイロット水道公社の能力向上に注力し、プロジェクト後半(2015～2017年)に全国の水道公社へ技術・知見の普及を試みています。

全国展開のツールは3つあります。一つ目は2015年6月から四半期ごとに開催している全国展開ワークショップです。MaWaSUプロジェクトの理解を深めつつ、(続きは2ページ)



第5回全国展開ワークショップ

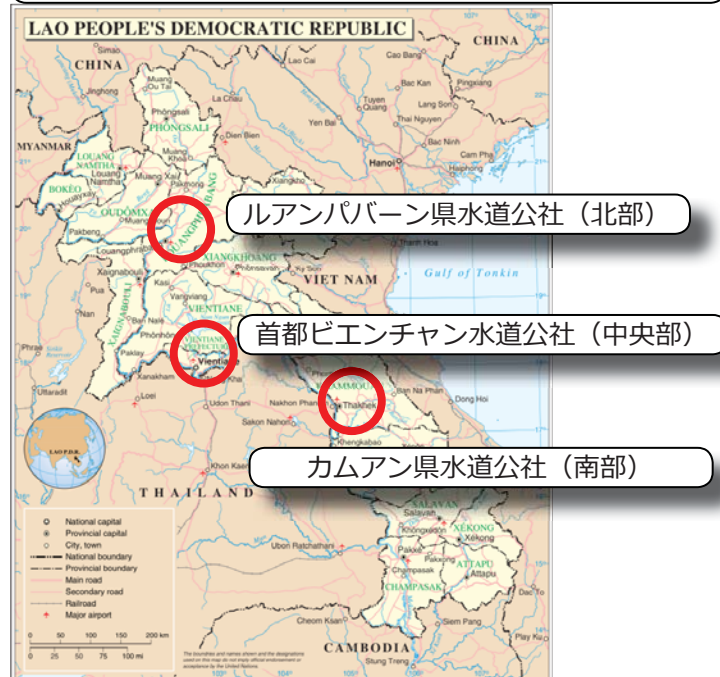
2015年6月から開始した全国展開ワークショップが第5回目を迎えました。今回のテーマは問題分析です。冒頭に3パイロット水道公社より長期計画に活用している23PI(業務指標:Performance Indicator)のうち、優先性の高い課題であると考えられるPIを3個抽出し、3カ年の推移とその推移に対する評価分析、長期計画にどのようにフィードバックしているか(するつもりか)の報告がなされました。引き続き、下村リーダーより話題提供として、日本の事例を含めた蛇口の水を飲む文化についての講義があり、グループワークに進みました。(続きは2ページ)

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組みの整備を行っています。

パイロット水道公社 (3公社)



ルアンパバーン県水道公社 (北部)

首都ビエンチャン水道公社 (中央部)

カムアン県水道公社 (南部)

第5回全国展開ワークショップ(続き)

のトピックは「お客様が水道水を飲まない理由」です。その問題についてグループに分かれて議論・分析を行いました。

ほとんどの水道公社グループが配水管網や水質管理(残留塩素や濁度)について問題点を挙げる一方、広報が課題とする水道公社グループもありました。

問題を挙げた次は分析です。MaWaSUのワークショップではPCM(Project Cycle Management)手法を取り入れています。PCM手法は、現状における問題を特定し、問題の原因を分析し、解決策を探り、その実行計画を形成するという管理手法です。問題の原因を分析するには、問題を形成するいくつかの問題同士の因果関係、すなわち原因と結果の結びつきを明らかにしていく必要があります。

結びつきが明確であればあるほど解決策を探りやすくなります。結びつきがなければ問題の羅列だけに留まり解決策は見つけられません。皆さんの水道公社グループはいかがでしたか?

次のワークショップは長期計画を立てるためのワークショップです。安全(Safe)、安定(Stable)、持続(Sustainable)の3Sをテーマに自身の水道公社について議論を深めていきます。問題同士の結びつきは水道公社運営にとっても大切なのでこの手法に慣れていくようにしましょう。



ワークショップに続いて開催された月例分科会の様子(人材育成)

水道研修 in Japan

Project MaWaSUではJICAラオス事務所と協力し、日本での研修に多くの水道行政や水道公社職員を派遣しています。

MaWaSUが研修コースを企画・立案するMaWaSU研修は年に1回、「水道事業における国の役割&水道事業経営」を学ぶプロジェクトメンバーを対象とする研修です(言語はラオス語)。

MaWaSU研修とは別にJICA本部が企画・立案する課題別研修はテーマが多岐に亘ります。世界各国の水道行政、水道公社職員と一しよに特定の分野を英語で学びます。2016年は以下の4コースにラオスの参加が認められています。

1. 都市上水道維持管理(給・配水)
2. 都市上水道維持管理(浄水・水質)
3. 水道管理行政及び水道事業経営
4. NRWに関する研修(コース名未定)

7月~8月にかけて、首都ビエンチャン水道公社 Ms. Chanmany Philavanh
ルアンパバーン県水道公社

Ms. Salophone Sithammarath

Mr. Senganong Khounnisengが参加します。



日本での研修の様子
(Ms. Salophone Facebookより)

全国展開・中部/北部「出前講座&OJT」(続き)

毎回プロジェクト進捗に適した水道事業における課題をテーマにグループディスカッションや講義を行います。二つ目はミニ(地域)ワークショップです。北部、中部、南部に分かれて全国展開ワークショップで取り上げたテーマをフォローアップする形で、内容をより掘り下げて説明します。三つ目は「出前講座&OJT」です。各地域担当の水道公社MaWaSUメンバーが各県に赴き主要職員全員に対して講義するとともに事業分野ごとにFact-to-faceで内容を伝えていきます。

3月に南部でスタートを切った第1巡目「出前講座&OJT」は「データ管理」を主要テーマに5月から6月にかけて中部Bolikhamsay県、Xieng Khouang県、Vientiane県(Xaysomboun県はBolikhamsay県、Vientiane県に分けて参加)、北部Oudomxay県、Luang Namtha県、Bokeo県、Xaynhabouli県において実施されました。各県水道公社では局長自らパイロット水道公社MaWaSUメンバーを歓迎してくれました。



出前OJTを実施するMaWaSUメンバー
(首都ビエンチャン水道公社Anousa職員)

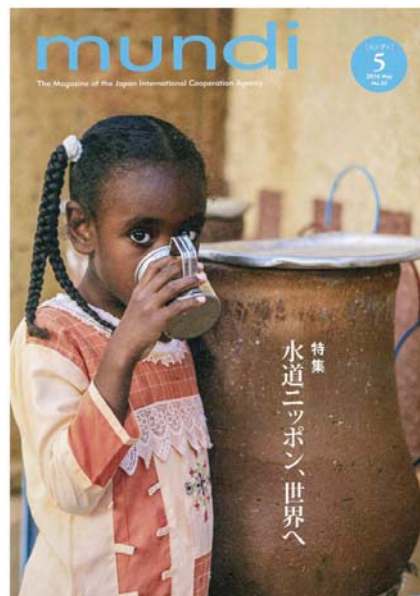
「出前講座&OJT」を行ったMaWaSUメンバーによると、どの水道公社職員もMaWaSU活動に興味を示し熱心に説明を聞いてくれたようです。限られた時間ですべてを伝えられなかったことやお客様アンケートや水道教室など初めての取り組みについては担当者が不明確であったなど想定外のこともありましたが、この機会を通じて整備され実施に向けて準備が進められていくことと思われます。

MaWaSU広報

JICA広報誌「mundi」2016年5月号にMaWaSUの記事が掲載されました。

バックナンバーは以下のURLをご参照ください。

<http://www.jica.go.jp/publication/mundi/1605/index.html>



中小企業支援現地調査プログラム来訪

2016年6月22日～25日に中小企業支援現地調査プログラム(ラオス・上下水道分野)訪問団がラオスを訪問しました。JICAが実施している「中小企業海外展開支援事業」の一環として、開発途上国への海外進出を検討している中小企業を対象に、開発途上国が抱える課題と、その解決のため、我が国中小企業に求められる役割についての理解を深めることを通じ、「中小企業海外展開支援事業」への応募およびその後の現地でのビジネス展開につなげていただくことを目的に実施されました。



公共事業運輸省を訪問



ラオス水道行政へ事業説明を行う民間企業の代表者

参加企業6社、合計10名の訪問団はJICA、JETROからのラオス・ブリーフィングに加え、水道行政を管轄する公共事業運輸省・水道局を訪問し都市水環境改善に係る政策、方針、JICA事業の内容・成果等の説明を受け、日本企業からは各社の事業説明を行いました。また、首都ビエンチャン水道公社を訪問し、事業概要説明を受けるとともにチナイモ浄水場や水道メータ課、ボトル飲料水工場を視察しました。

最終日は、JICA中小企業海外展開支援事業を活用した(株)トーケミが実施している「スモール・タウン水道事業向け高濁度原水対応型浄水装置の普及・実証事業」の現場視察として約150km離れたボリカムサイ県まで足を伸ばしました。

下水道関係では、視察団は天然資源環境省をはじめゴミ最終処分場にある汚泥処理場、商業施設の工場廃水としてビアラオ(ラオスビール)工場、ホンセン水路(4km)、分散型汚水処理施設(DEWATS)の視察を行いました。

また、ラオス商工会議所による「排水規制に関する現地企業向けのセミナー」に参加し、この様子は現地新聞にも取り上げられました。

最終日は、JICA中小企業海外展開支援事業を活用した(株)トーケミが実施している「スモール・タウン水道事業向け高濁度原水対応型浄水装置の普及・実証事業」の現場視察として約150km離れたボリカムサイ県まで足を伸ばしました。

MaWaSUプロジェクトでは官民が相互に協力し合いラオス水道分野の支援を拡充するために引き続き応援していきます。

最終日は、JICA中小企業海外展開支援事業を活用した(株)トーケミが実施している「スモール・タウン水道事業向け高濁度原水対応型浄水装置の普及・実証事業」の現場視察として約150km離れたボリカムサイ県まで足を伸ばしました。



トーケミ事業の浄水装置設置の様子

2016年度前期短期専門家・インターン紹介

6月5日着任の高橋順一コンサルタントをはじめ、2016年度前期短期専門家およびJICAインターンがそれぞれ着任します。

2016年度前期短期専門家は総勢6名。MaWaSU最終年度の指導、支援を行います。専門分野はNRW管理、財政、浄水場O&M(水質管理)、総務・営業、配水管網施設計画、浄水場施設計画です。

前期インターンは合計4名です。水道に密接に関わる衛生問題、海外での水ビジネス、JICAの技術協力の現場など皆さんそれぞれの興味、課題を持ちMaWaSUでのインターンに臨みます。カウンターパートとの交流や専門家団からの指導を受けて多くの学び得て有意義なインターンになりますように。

The Capacity Development Project for Improvement of Management Ability of Water Supply Authorities

Short-term experts in JFY2016 (I)

 Mr. Junichi Takahashi Non-Revenue Water (NRW) control Working period: 05/06/2016 - 30/12/2016	 Ms. Kaoru Nishii Finance Working period: 11/07/2016 - 04/09/2016	 Mr. Takuji Okubo Water quality management (O&M in WTP) Working period: 09/08/2016 - 01/10/2016
 Mr. Shota Sekine HRD, Business administration Working period: 02/08/2016 - 01/10/2016	 Mr. Koji Nomura Pipeline network planning Working period: 02/08/2016 - 30/10/2016	 Mr. Ryuta Ochi Water treatment plant planning Working period: 02/08/2016 - 30/10/2016

The Capacity Development Project for Improvement of Management Ability of Water Supply Authorities

Intern in JFY2016

 Ms. Reina Kosugi Intern in Project MaWaSU Intern period: 24/07/2016 - 01/09/2016	 Mr. Shotaro Torii Intern in Project MaWaSU Intern period: 20/08/2016 - 08/10/2016
---	--

Ms. Reina Kosugi: Hello, my name is Reina Kosugi. I graduated from Waseda University in Department of Architecture, and am going to Master in Urban Development at University College London. I am interested in clean water management, and so very glad to take part in the project. I look forward to seeing you soon. Thank you.

Mr. Shotaro Torii: Hello, my name is Shotaro Torii. Please call me Torrey. I am a 1st grade graduate student from the University of Tokyo and major in environmental engineering, in particular, "water and health". First of all, thank you very much for offering me an internship position. The reason why I applied this program is that I have a great interest in how to develop sustainable water supply system. Therefore, in this internship, I'd like to learn what is important to achieve that. Also, I'd like to experience a fantastic atmosphere of Laos, the beauty of landscape, tasty food and etc. I'm very excited now and looking forward to seeing you soon. Thank you.

The Capacity Development Project for Improvement of Management Ability of Water Supply Authorities

Intern in JFY2016

 Mr. Daisuke Katsushika Intern in Project MaWaSU Intern period: 14/08/2016 - 17/09/2016	 Ms. Ayaka Shibazaki Intern in Project MaWaSU Intern period: 27/08/2016 - 01/10/2016
---	--

Mr. Daisuke Katsushika: Hello, my name is Daisuke Katsushika. Nice to meet you. I'm studying international law. I'm interested in the water supply because of my experience of east Japan earthquake. I want to solve the water shortages all over the world. I'm looking forward to work in Laos. I want to do my best.

Ms. Ayaka Shibazaki: Hello. My name is Ayaka Shibazaki. I am a senior student of Keio University. My major is Environment Information, and especially I use GIS at my lab. The reason why I use GIS is that the cholera outbreak map of feed pump was really shocking to me, and now I think sustainable water supply is important for human health. I'm really glad to take part in project MaWaSU. I want to learn a lot from this project. I'm very much looking forward to seeing you. Thank you.